

豊田合成の経営資本 ～76年の歴史を積み重ねて培ってきた経営資本～

 人的資本

企業の進化と成長を支える
ダイナミズムに満ちた
「高分子型組織」へ変革

当社は世界15カ国・地域、グループ58社で事業展開をしています。国籍・性別・年齢・ライフスタイルなどの異なる多様な価値観や才能を持つ従業員の個性や可能性を引き出し、有機的に結合することで、新たな創造性やパワーを生み出すダイナミックな「高分子型組織」の実現を通じて、持続的な進化と成長を目指していきます。

従業員数	39,192名
海外従業員比率	76.2%
ナショナルスタッフ幹部比率	37%
女性管理職(単体)	41人
中途採用者管理職比率(単体)	33%
従業員エンゲージメント(単体)	59%

 製造資本

ゴム・樹脂分野の知見と
グローバルネットワークを活かして
世界中のお客様へ「安心・安全」
「快適」「脱炭素」を提供

世界中のお客様のニーズにタイムリーにお応えできるよう、各地域に根差した営業・技術体制とグローバルで最適な生産・納入体制を整えています。加えて、76年培ってきた自社の強みである「ゴム・樹脂の知見」を活かし、工法や生産設備を革新的に進化させ、モノづくり力を高めています。また、ICP(インターナル・カーボンプライシング)を導入し、地球環境と経済活動のバランスをふまえ、投資判断しています。

拠点数	58社 (2025.6.30現在)
設備投資費	574億円 (2025/3月期)
CO ₂ 排出量削減(単体)	▲39.6% (2015.3期比)

 知的資本

高分子の可能性を追求し
唯一無二な
研究開発力を磨きあげ
競争優位性をさらに強化

クルマの様変わりに伴う変わりゆく未来を見据え、社会やお客様のニーズを先読みし、提案できる技術力を持ち合わせていくことが重要です。研究開発力は企業成長の源泉であり、直近3カ年で約1,000億円の研究開発費を投入し、高分子の可能性を追求した、新規・既存事業の研究開発を推進しています。IPランドスケープを活用し、新規事業開発の意思決定の確度とスピードアップを図り、競争優位性をさらに高めています。

研究開発費	419億円 (2025/3月期)
開発・技術員(単体)	2,222人
保有特許数	日本2,354件 海外2,045件

 社会・関係資本

ステークホルダーとの
丁寧な対話による
強固な関係を構築

自動車業界では市場構造の急速な変化と勢力図の転換が進むとともに、事業環境の不透明感と不確実性が一層増えています。経営ビジョンを実現していくには、さまざまなステークホルダーとの円滑な連携が重要です。当社はステークホルダーと丁寧に対話を重ね、社会への価値提供を通して、強固な相互信頼関係を構築・維持し、厳しい事業環境の中でも柔軟に適応しながら、着実に進化し続けます。

サプライヤー数(単体)	約600社
大学共同研究・連携	名古屋大学・ 大阪大学・ 東北大学
アナリスト・機関投資家向け個別ミーティング	179回

 自然資本

培ってきた環境技術と知見を
活かした「気候変動」と
「資源循環」への取り組み

当社は、1993年に「第1次環境取り組みプラン」で本格的に環境活動を開始し、30年以上精力的に取り組んできました。自然資本はマテリアリティ(重要課題)やアウトカムの根源です。これまで培ってきた「環境保全の知識・技術」と競争優位性の一つである「ゴム・樹脂分野の知見」をより進化させ、自然資本を効率的に投入することで環境負荷の低減、地球環境・資源の保全と経済的価値の創出の両立を目指していきます。

総エネルギー投入量 ※ギガジュール(1,000,000,000J)	208.2万GJ [*]
総物資投入量	44,448t
水資源投入量	98.5万m ³
再生可能エネルギー投入量	2.5万GJ
ISO14001生産事業所取得率 (環境マネジメントシステム)	100%

 財務資本

持続的成長と
企業価値向上を支える
健全な財務マネジメント

財務の「成長性」「安全性」「効率性」の3つのバランスにより、持続的成長と企業価値向上を目指します。当社の資本コストを上回るROE10%の達成に向け、資産効率向上の観点から当社独自のTG-ROIC[※]などの新しい管理指標を導入しました。より多面的な財務マネジメントを実践していきます。

TG-ROIC [※] ※TG-ROIC = $\frac{\text{営業利益}}{\text{固定資産} + \text{棚卸資産}}$	13.7% (2024年度)
ROE	6.8% (2025/3月期)
信用格付(R&I)	A ⁺ (2024年10月2日時点)